

制作概要

『ずいずいずっころばし』は古くから伝わるわらべうたである。元来、江戸・東京地域に始まったらしく、岡本昆石編『あづま流行時代子供うた』（1894年薫志堂）に記録されているのが初見のようである。歌詞も変遷しながら今の形になった鬼決め唄。様々な説があり「宇治でとれた新茶を将軍に献上する御茶壺道中をうたったうた」という説（『わらべ唄風土記 下』1970年 塙書房）が有名。全国的に知られており現在の子どもたちにもあそびうたとして歌い継がれている¹。

素朴なわらべうたの旋律と西洋の和声を融合させて新たな魅力を探る。「ずっころばし」の濁音「ズ」と促音「ッ」のあとの「ころ」の音との組み合わせで発音される「ずっころ」というコミカルな響きがメロディーの付点音符のリズムで一層いかされる。この「ずっ」の発音のニュアンスと付点音符の微妙な間合いで様々な表情が出てくる。言葉（歌）で聴いた「ずっころ」の様々な表現をピアノの音だけで聴くとき、聴き手がピアノで奏でられる色々な「ずっころ」を想像豊かに楽しんでもらうことがねらいである。言葉の面白さをいかして歌曲として構成。中間部はピアノ曲としてモチーフを即興的に展開して両方の魅力を堪能できる作品にした。

丹波の森国際音楽祭シューベルティアードたんば実行委員会の招聘により『山南街角コンサート in 常勝寺』で初演。ソプラノ：田邊 織恵 ピアノ：井本 英子 演奏時間：6分

井本 英子

『ずいずいずっころばし パラフレーズ』

2017年11月4日

『丹波の森国際音楽祭シューベルティアード
たんば2017 山南街角コンサート in 常勝寺』
兵庫県丹波市山南町 常勝寺客殿

4分の2拍子 a moll I m—V m7 (Am—Em₇) のバンプによる4小節の短い前奏のあと、一般に知られているメロディーと歌詞で1コーラス目を歌う。素朴なコード進行とリズムでピアノが伴奏する(譜例①)。

(譜例①)

Vocal

ず いず いず ころば し ご まみ そ ずい

Piano

2コーラス目は8分の6拍子に変わる(譜例②)。フレーズとフレーズの間を長く取り、その間にピアノで言葉のモチーフ「ごまみそずい」(譜例②—M1)をいかしたフィル・インを入れる(譜例②—4小節目~)。同様に核になる言葉「とっぴんしゃん」「どんどこしょ」「ちゅう ちゅう ちゅう」のモチーフを歌やフィル・インでクローズアップする。

(譜例②)

Vocal

ず いず いず ころば し ご まみ そ

Piano

(M-1)

ずい (M1) sua (M1) (M1) (M1)

中間部「ちゅう ちゅう ちゅう」は拡大して展開。最高音F#に達するフレーズで歌い上げる(譜例③)。そのあと全音音階を使ったピアノの пассаージュをブリッジとして後半に繋がる。

(譜例③)

ちゅうちゅうちゅう ちゅうちゅうちゅう ちゅう ちゅう ちゅー ーう ちゅうちゅうー

後半の「おっとさんがよんでも」からはクリシェ・ラインをベースに使用し、リハモナイズした和声の伴奏でゆったりと叙情的な雰囲気奏する。(譜例④)

(譜例④)

Am G#aug CM7/G F#m7^(b5) FM7 F#m7^(b5) Am7/G G#aug

おとさんがよんでもー

3コーラス目はピアノ・ソロ。4分の4拍子で中庸の速さでテーマを奏でるが「とっぴんしゃん」からは2コーラス目のフレーズを使って8分の6拍子で展開。「ちゅうちゅうちゅう」の拡大したフレーズの中で「ずいずい」「ずっころばし」のモチーフを中心に拍子や調子を変えながら流動的に展開する。「おっとさんがよんでも」で2コーラス目の叙情的な雰囲気にもどる。4コーラス目は最初のテンポにもどり4分の2拍子で歌が入る。「ずいずいずっころばし」のフレーズを拡大して歌とピアノで「ずいずい」「ずっころばし」のモチーフを掛け合いしながらクライマックスとなる。

(譜例⑤)

ずっころばしずっころばし

「おっとさんがよんでも」から8分の6拍子で柔らかく奏でて、「いどのまわりで」から1コーラス目の素朴な歌と伴奏に戻って終結する。